

『こども食堂通信』N0.5

発行:公益社団法人北海道社会福祉士会 道央地区支部

子ども食堂訪問記⑤♪「すすきの子ども Café わくわく」編(札幌市中央区南8西3)

(どんな食堂?)

2月20日、「すすきの子どもCafé わくわく(以下「わくわく」と省略)」にお伺いしました。

地下鉄南北線すすきの駅又は中島公園駅等から徒歩5分のところにある「ホテルリリーフ札幌」1階のカフェで月1回、開催しています。カフェは、朝はホテルの朝食会場、日中はカフェ「VERY FANCY」、若者に人気のパンケーキ店です。地下鉄や車で来る子どもや親子もいるようです。

(子ども食堂の雰囲気)

訪問したのは18時半過ぎでしたが、カフェの大きな窓から大勢の子どもの姿がみえ、子ども食堂に入ると席は満席。幼児と母親が多く参加していました。大はしゃぎで食堂から出て、フロントのまわりを走りまわる子ども。ホテルスタッフは温かい目で見守り、食堂スタッフは追いかけるのに大忙し。外国人のボランティアもいて大賑わいでした。

ホテルのフロント前では、旅行者と交じり、食事をしている学生ボランティアの姿も。食事を終えてから学生ボランティアがアカペラで、「ドラえもん」の歌を子どもたちと一緒に歌ったり、母親たちへの応援歌「ファイト」を披露しました。

食事の料金は、中学生以下10円、高校生100円、保護者200円、一般500円。本日のメニューはカレーライス。

カフェの食器は白で統一され、とてもおしゃれ。子どもたちが遊ぶスペースもあり、母親たちはゆったりと話しができ、外からみるとカフェでママ友がお茶をしているような雰囲気です。

(子ども食堂の結集とホテルの全面協力)

「わくわく」はホテルから子ども食堂を開催してほしいと依頼された、狸小路や西野等で子ども食堂を運営している方々が中心となっています。立地条件や校区の範囲など地域性を踏まえた、運営内容となっています。ホテルから開催場所や食器、お風呂等が無料で提供され、配膳の人手が足りない時はホテルのスタッフが手伝ってくれます。

お風呂は、男女交代制ですが、食事をした人は無料で利用でき、タオルも無料。約8割の人がお風呂を利用しています。シャンプーを持参する高学年の女子もいます。ホテルのスタッフも常に身守ってくれるので安心して入れます。子ども食堂が札幌で軌道にのれば、他都市のホテルでも子ども食堂を運営したいとホテルは考えているようです。

(訪問しての感想①)

子ども食堂の訪問は、今回で5カ所目となります。今回は、ホテル照明の効果もあり、母親たちが生き生きと楽しそうにお話する姿が印象的でした。親が笑顔でいることが子どもの一番の幸せなのかもしれません。参加者によって、予想しなかった雰囲気の子どもの食堂になることもあるでしょうが、自宅以外の場所を求めて参加してくる人たちのニーズに合わせた食堂になっていく現状もあるのだと考えさせられました。

(訪問しての感想②)

最初は、社会福祉士会として何かできることはないかと思い、子ども食堂を運営する方々にお集まりいただき、次に、社会福祉士会として情報提供やネットワーク化ができないかと思い、子ども食堂の代表者の方々にお集まりいただいたのが訪問のきっかけでした。

そして、行き着いたのが、子ども食堂の現状を学ぶことでした。月1回位のペースで訪問させていただいて、いろんな子ども食堂があることを知り、現場から学ぶことの大切さを教えていただいています。

これからも訪問は続けていきたいと思えます。今思えば、何かできることはないかと考えていたことがいかに大上段に構えていたか、深く反省しております。

社会福祉士として参加する前に一市民として、自分の住んでいる地域や職場の近くの子ども食堂にご飯を食べに行き、自然と顔なじみになることで、食堂との距離感を縮め、そのうえで自分の持ち味・専門性を自然な形で生かしていくことが理想ではないかと考えています。

今後は、830人を超える道央地区の社会福祉士に伝えるため、引き続き、現場に学ばせていただき、前進していきたいと思います。

(最後に)

子ども食堂の皆様には本通信を送付しておりますが、来月からは、Eメールかファックスによる送付に限らせていただきます。いずれかを希望される方は、別紙用紙にてご連絡をお願いします。

北海道社会福祉士会道央支部のホームページには引き続き掲載しますので、これからもご覧ください。子ども食堂への訪問は今後も継続していきますので、ご依頼の際はご協力をお願いいたします。



食事の内容



ウェルカムボード